

11 いちじく

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	特記事項
有機質資材 施用技術	<p>○<b>たい肥等有機質資材施用技術</b>            土壌診断に基づき、適切に完熟たい肥等を施用する。</p>	牛ふんたい肥 2 t/10a
化学肥料 低減技術	<p>○<b>肥効調節型肥料施用技術</b>            被覆肥料等の利用により肥効率を向上させる。</p> <p>○<b>有機質肥料施用技術</b>            有機質肥料（油かす等）を用いた施肥体系とする。</p>	化学合成窒素量 3.6kg/10a 以内
化学農薬 低減技術	<p>○<b>機械除草技術</b>            除草機械により雑草（害虫発生助長植物も含む）を駆除する。</p> <p>○<b>生物農薬利用技術</b>            生物由来の有効成分である農薬の利用により病害虫を駆除する。            ・生物農薬：ポーベリア ブロンニアティ剤(かきりん類) など</p> <p>○<b>光利用技術</b>            光反射資材利用により害虫を忌避させる。</p> <p>○<b>被覆栽培技術</b>            被覆資材により有害動植物の付着を防止する。            ・ハウス、雨よけ(黒かび病、そうか病等)</p> <p>○<b>マルチ栽培技術</b>            被覆植物（ナギナタガヤ等）、稲わら等利用により有害動植物等のまん延を防止する。            （耐病性等の向上ための台木利用）</p>	化学合成農薬成分回数 5成分以内
<p>その他の留意事項</p> <p>有機質資材施用で肥料効果が期待できる時は減肥する。            砂壤土で、肥料や石灰質資材の一時期の施用量が多い場合は分施する。            せん定による通光、受光の改善や枯れ枝、病枝を適切に処分する。</p>		